



室小だより

茅ヶ崎市立室田小学校
令和4年 3月号
校長 下反達二

学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的・創造的に行動する子の育成」

「芽吹き」

寒さの中にも陽だまりでの温かさを少しずつ感じます。一步一步小さな春が近づいてきています。そういえば、この間、松の実教室の子どもたちに、学校の畑で育てた小松菜をいただきました。我が家ではお味噌汁にいただきましたが、土の薫りがして、甘くてみずみずしくてとても美味でした。小松菜は、各地でハウス栽培されていて年間を通して出荷されていますが、本来寒い冬に採れる野菜だったので冬菜、雪菜などとも呼ばれているそうです。また、初春にとれる若くて色がうすいものは鶯菜（うぐいすな）とも呼ばれているのだそうです。寒さに強い植物で、霜が降りた後のほうが甘みが増し、葉も柔らかくなって美味しくなるのだそうです。それにしても、小学校というところは季節を感じることでできる素敵なおところだと今更ながら感じております。室小の木々に目をやると、その梢には、新しい芽や蕾がつきはじめています。

さて、いよいよ3月です。3月の学校は、6年生の卒業式という大きな行事に向けて、動いていきます。今年も去年に引き続き、コロナ禍が、教育活動に大きな壁となって立ちはだかつておりますが、6年生は、卒業式までの日数を数えながら、小学校生活の最後を惜しみつつも、教科の学習をおろそかにすることなく毎日毎日の生活を粛々と積み重ねています。また、同時に各学年では、それぞれのクラス・学年の1年間のまとめと振り返りも進めています。クラスの仲間、担任と過ごせる日数を数えながら。そして各担任を中心に子どもたちに関わる全ての教職員は、子どもたちが新しい学年に進級していくための心の準備期間とするとともに、この1年間の子どもの成長とがんばりを一人ひとりに伝え、自信をもって進級できるよう支援を行っていきます。

「春になったら芽が出るように、それが光に向かって伸びていくように、魂は成長したがっているのです。」とは、児童文学「西の魔女が死んだ」（梨木香歩作）の中に出てくる主人公まいに語る祖母の言葉です。室小の子どもたちの成長はどうでしょうか。この一年間の子どもたちの成長には、一人ひとりのがんばりと努力とともに、それを支えてくださったたくさんの人の励ましがあつてのことと思います。子どもたちの中にあるその尊い成長の萌芽に丁寧な心をめぐらせ、大切にしながら温かく見守っていきたいと思います。

進学・進級という大きな節目を迎える子どもたちが、この春、どんな夢や希望を心に描くのでしょうか。どうか勇気をもって一步を踏み出してほしいと祈るばかりです。



今年度も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年間でしたが、保護者の皆様、地域の皆様、1年間、様々な形でのご協力、ご支援本当にありがとうございました。教職員一同、これからも子どもたちのために頑張ってまいります。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。